

今月の

＼ 気になる ＼

よかもん

会議所NEWSの編集担当が
街で見つけた“よかもん”をご紹介します

これまで
海外24か国で公演！



こま 扇の上で独楽が舞う?!博多発祥の独楽曲芸!

明けましておめでとうございます🎉
お正月遊び独楽回しのルーツが博多にあると
聞いてやってきたのは、「(株)筑前博多独楽」さん。

独楽は一つひとつ
手作り!

博多発祥! 曲芸独楽

扇や刀の上で独楽を回す曲芸が、博多で生まれたことをご存知ですか? 🎐

独楽は、今から約1300年前の奈良時代に中国から初めて伝えられ、江戸時代に現代独楽の原型とされる鉄芯を打ち込んだ木製独楽が博多で作られるようになりました。揺れに強くてよく回るという博多独楽の特徴から、東長寺(博多)でけんか独楽という遊びが生まれ、それが曲芸へと発展して全国で人気を博したのだとか! その後、博多の独楽師は天皇から「御独楽宗匠」という称号まで受けますが、江戸幕府からの禁止令などにより下火になっていきました。

それを福岡で復興させたのが初代の筑紫珠楽さんです。唯一の家元として、古文書にしか記録がない曲芸の技を直接教え伝えてきたそう! 三代目の珠楽さんも3歳で初お披露目をして以降、技術の習得と独楽製作の修行を重ね、福岡県無形文化財でもある伝統芸能を守り続けてきました。

※独楽の歴史は諸説あります。

5年の歳月をかける

曲芸独楽の製作と絵付け

伝統工芸品としての博多独楽は、一つひとつ手作りで製作されています。なんと木の伐採から手がけられており、よりよい材木を求めて数週間山に籠ることもあるそう🙄さらに、1つの独楽が完成するまで、伐採した木の乾燥に約2年、形成や鉄芯の打ち込みの調整に約2年、絵付けや漆塗に約1年必要で、5年の歳月がかかります🙄年間50個ほど製作しますが、舞台上で使えるのは曲芸に必要な独楽の回転数を満たした数個なんだとか🎐

丹精込めて作られた独楽の曲芸は、海外公演でも大人気! 日本の伝統文化を発信しています🙄

博多独楽の絵付けや独楽回し体験は、毎週水曜日に「博多町家」ふるさと館で体験することができます。新年のおでかけに、ご家族と伝統芸能に触れてみてはいかがでしょうか?



「博多町家」ふるさと館で
絵付け体験ができます!

(株)筑前博多独楽は、福岡県無形文化財指定の博多独楽を地域の方々や次世代の子供たちに継承するため、初代の筑紫珠楽が約80年前に設立しました。また、日本の伝統文化を海外にも発信するため、二代目が海外公演を企画して以来、国内外問わず活動をしています。

伝統芸能の鑑賞は数居高く感じる方も多かもしれませんが、博多独楽を通じて博福の歴史を学ぶことは、郷土愛を醸成することにもつながると考えています。コロナ禍で海外の公演は減りましたが、最近では、チェロなど楽器演奏との融合を基調とした公演を企画するなど、新たな挑戦を続けています。また、博多伝統芸能振興会(福岡商工会議所内)の「伝統芸能四季の舞」などでも公演をしています。470年以上の歴史を誇る博多独楽の曲芸をぜひご鑑賞ください!

(株)筑前博多独楽

福岡市南区屋形原4-35-5
TEL:092-409-4882

※公演情報は、公式ホームページからご確認ください。

<博多独楽絵付け・独楽回し体験>

「博多町家」ふるさと館(博多区冷泉町6-10)

毎週水曜日10:00~12:00 / 14:00~16:00



(株)筑前博多独楽 代表取締役社長
宗家三代目 御独楽宗匠
筑紫 珠楽さん

